

CAMPUS PRESS

2013 MARCH 学報 No.100

NAS 長崎総合科学大学
Nagasaki Institute of Applied Science

2013年(平成25年)MARCH 学報 No.100 編集・発行 長崎総合科学大学 入試広報課 〒851-0193 長崎県長崎市網場町536 TEL:0120-801-253 <http://nias.jp/>



学校法人
NAS 長崎総合科学大学
Nagasaki Institute of Applied Science
since 1942

INFORMATION

大学・大学院

大学入試日程

2013(平成25)年度センター試験入試Ⅲ期とAO入試

制度 項目	センター試験利用入試 Ⅲ期	AO入試 AO特待生入試
出願期間	3/12(火)～3/25(月) 必着	受付中～3/14(木) 消印有効
試験日	—	随時
入試科目等	4科目又は3科目(学科により異なる) 1.国語(国語)(国語のうち近代以降の文章) 2.地理歴史・公民(世A世B、日A、日B、地理A地理B、現代社会、倫理、政治、経済、「倫理、政治、経済」) 3.数学①(数I、数II・数A) 4.数学②(数II、数II・数B、工業数理基礎、情報関係基礎) 5.理科(理科総合A、理科総合B、物理I、化学I、生物I、地学I) 6.外国語(英、独、仏、中、韓) ※英語はリスニング含む	面接(個別) 志望理由書 出願時提出 600字～800字
試験場	—	原則として本学
検定料	13,000円	30,000円
合格発表日	3/28(木)	3/15(金)、3/22(金)

平成24年度卒業式・修了式 3/16(土)10時～

於:長崎総合科学大学グリーンヒルキャンパス体育館

平成25年度入学式 4/2(火)10時～

於:長崎総合科学大学グリーンヒルキャンパス体育館

附属高校

入試日程

2013(平成25)年度一般入試[二次試験]

制度 項目	一般入試 二次試験
出願期間	3/15(金)～3/19(火)
試験日	3/20(水)
入試科目等	国・英(リスニングは無し)・数・個人面接
試験場	本校
検定料	12,000円
合格発表日	3/20(水)

平成24年度卒業式 3/1(金)10時～

於:長崎総合科学大学グリーンヒルキャンパス体育館

平成25年度入学式 4/8(月)13時30分～

於:長崎総合科学大学グリーンヒルキャンパス3号館6階大講義室

大学ホームページをサブリニューアルしました!

昨年11月より大学ホームページをサブリニューアルしました。見やすいシンプルでデザインになったホームページを是非ご利用ください。



ブライアン・パークガフニ教授
ブリル社(オランダ) 出版
「ホーム・リンガー商会～日本における英国企業の興亡、1868年～1940年」

西日本における国際貿易と長崎経済の大黒柱となった「ホーム・リンガー商会」に関する研究成果をまとめたもの。

慎 燦益教授
海文堂 出版
「造船幾何学」

「船体線図」の幾何学的な理解と設計方法を知り、排水量等の諸計算結果の図示について理解できる内容。

今回記念すべき「100号」を発行するにあたり、デザイン等を刷新した。学報が創刊されたのは、1958年8月。当時の名称は前身の「長崎造船短大」の「歴史を感じさせる創刊号」には、「本学と世の中がしっかりと結びついた機能として運営するために、その動脈として学報を発刊した」とその趣旨が記載されている。時が経ち形は変わっても、脈々と引き継がれてきた学報制作に関わられたこれまでの先人の思いを今後も継承していきたい。

今回、附属高校サッカー部が全国選手権で新たな歴史の一步を刻んだ。この学園で、学生、教職員がともに一体となって新たな時を刻んでいく機会を今もいただいていることに日々感謝し、学報がその重要なコミュニケーションツールとしての役割を担っているように、進化し続けるべき努力を怠らないようにしていきたい。(一)&(一)



編集後記



このQRコードで
本学携帯電話ホームページにアクセスできます

※NIAS(ニアス)は、大学の英文名
Nagasaki Institute of Applied Scienceの
略称です

記念行事を盛大に開催

学校法人創立70周年、附属高等学校創立50周年を記念し、昨年10月13日（土）、長崎ブリックホール（長崎市茂里町）において、記念式典ならびに記念講演会を開催した。

式典では行徳威夫理事長が、「これからも活気と情熱、そして科学の光が感じられる、地域に開かれた学園を目指す」と式辞を述べた。

続いて、田中眞紀子文部科学大臣代読・森見憲私学行政課長、中村法道長崎県知事（代読・田中桂之助副知事）、田上富久長崎市長、大沼淳日本私立大学協会会長代読・小出秀文事務局長、片峰茂長崎大学長が祝辞を述べた。

続いて、田中眞紀子文部科学大臣代読・森見憲私学行政課長、中村法道長崎県知事（代読・田中桂之助副知事）、田上富久長崎市長、大沼淳日本私立大学協会会長代読・小出秀文事務局長、片峰茂長崎大学長が祝辞を述べた。



杉田亮毅氏（前日本経済新聞社会長、日本経済研究センター代表理事・会長）による記念講演



祝賀会で挨拶する貴島勝郎学長



記念式典で式辞を述べる行徳威夫理事長



津軽三味線を演奏する本学学生・村尾亜耶さん（左）



在は、創立以来の伝統を誇る船舶工学科のある工学部、情報学部、環境・建築学部の3学部7学科、大学院・別科などを有する長崎総合科学大学と同大学附属高等学校を設置している。エネルギーや環境分野などの産官学連携事業やものづくり分野での人材育成に積極的に取り組んでいる。

電気電子工学科 創立50周年記念式典・記念講演会及び記念同窓会

学校法人70周年記念行事開催当日は、電気電子工学科の創立50周年記念式典・記念講演会も長崎国際ホテル日昇館（長崎市西坂町）で開催された。



基調講演 池田雅博 電気電子工学科教授（右下）

講演 松枝隆幸氏（松栄エレクトロ（株）代表取締役、電気工学科昭和45年卒）（右上）

立石 暁 新理事長 就任挨拶

私は、昨年11月、本学創立70周年の記念すべき年に、行徳前理事長の後を受け、理事長に就任しました。伝統ある本学法人の舵取りを委ねられたことは、光栄の至りであり、その責任の重大さに身の引き締まる思いであります。

私はこれまで、長年にわたり、長崎県の行政や教育・文化、地域経済の振興、中小企業の支援など幅広い分野の仕事に携わり、県民生活の向上に心血を注いできました。しかし、私立大学の経営に直接かわることは初めてであり、これまでの経験や知識を最大限生かしながらも、初心に還り、緊張感をもって全力を尽くす決意であります。

本学は、西洋科学技術伝来の地であり、また、近代産業揺籃の地であるこの長崎で、県内唯一の理工系私立大学として、日本のものづくり産業を支える人材養成、技術研究などの分野で大きな役割を果たしてきました。2万人近い卒業生の多くは、全国のものづくりの最前線で活躍しています。まさに、本学の建学の精神である「実学実

践」（ものづくりとしての実行力）、「創意革新」（独創的な新技術の開発）の理念が、卒業生一人ひとりの胸に脈々と受け継がれているのです。

日本のものづくりの伝統が危ぶまれ、製造業の空洞化が懸念される今日こそ、本学を支えてきた建学の精神や理念が、今一度、再評価される必要があるのではないかと考えています。

これからも、本学は、21世紀の新たな科学技術の進展に即応した質の高い教育・研究を実践することにより、日本の経済やものづくり産業の活性化に大きく寄与するとともに、グローバルな国際社会で貢献できる人材を育成し続けることで、「長崎に、総合科学大学あり」と称される、存在感あふれる大学を目指していかねければなりません。

また、本学は、東長崎地域で唯一の大学であり、学術研究の分野だけでなく、教育・文化・産業・コミュニティ活動などまちづくり全体の推進役を担っていかねければなりません。現在、本学を中心に産官学・地

域が一体となって取り組んでいる「東長崎エコタウン構想」はその柱となるプロジェクトです。

これからは、「地域に信頼され、地域とともに歩む大学」だけが生き残っていくのではないのでしょうか。

本学は、これまでも「学生第一主義」を掲げ、きめ細かな指導による基礎学力の習得や実社会で必要となる自分で考える力を育てることに力を注いできました。私は、これまで以上に、学生一人ひとりの学業や生活の実態に即した全人教育を実践することにより、すべての学生が「この大学に入学してよかった」と実感してもらえような大学をめざしていきます。

このためには、教員・事務職員・法人役員の一人ひとりが、本学の現状を直視し、課題解決のために一致結束して知恵と力を出し合うことが不可欠です。私も、全身全霊を注いで努力していきたいと考えていますので、皆様のご協力とご指導をよろしくお願いいたします。

役員の変更について（平成24年11月11日付）【就任のみ掲載】

理 事 長	立 石 暁（前副理事長）
常務理事	池 上 国 広
理 事	坂 井 俊 之
特別顧問	行 徳 威 夫（前理事長）



感動と勇気をありが 第91回 全国高校サッカー選 躍動の軌跡&熱戦譜

とう 附属高校サッカー部 手権大会 初出場でベスト16に進出!! 応援ありがとうございました。



3
回戦

vs 東海大仰星 0-1
1月3日／駒澤陸上競技場(東京都)

ボール支配に苦しみペース掴めず惜敗！
東選手の豪快シュートもポストに阻まれ涙



FW 東 俊宏 選手



後半終了間際にも何度も
チャンスを作り攻め続け
たがゴールが遠かった。

1点リードされた後半に投入された長身FW
は、前線のターゲットとなり、迫力あるプレー
で何度も相手ゴールに迫った。
試合終了間際に放った豪快なシュートは、
惜しくもポストに阻まれた。

2
回戦

vs 香川西 4-1
1月2日／市原臨海競技場(千葉県)

強風を味方につけ個性豊かな攻撃陣が躍動！
堀選手が2ゴールの活躍 4得点で快勝!!



FW 堀晃一郎 選手



チームの支柱となって活
躍した前川主将(右)と吉
岡選手(左)

トップ下の堀選手は、この日2ゴ
ールの大活躍!最終ラインの裏に抜け出して左足
から放った先制ゴールはチームを勢いづけた。



手に汗握る白熱したPK
戦は、GK田中選手(グリ
ーンのユニフォーム)の好
セーブで決着!



1
回戦

vs 常葉学園橘 0-0(PK5-4)
12月31日／フクダ電子アリーナ(千葉県)

GK田中選手が好セーブ連発!
劇的PK戦を制し、全国で堂々の初白星!!



GK 田中祐昌 選手

身長166センチと大会
最小-GKながら、的
確な判断力と反応の
速さで相手の後半の
猛攻を阻止した。
PK戦も2度の好セ
ーブと守護神の活躍
が歴史的勝利を呼
び込んだ!



本学ならびに本学附属高校出身
の俳優金子昇さんも応援に駆け
つけてくださいました!

関連 TOPICS

長崎県高校新人大会で 3連覇を達成!!

サッカーの長崎県高校新人大会の
決勝戦が1月27日、島原市宮陸上競技
場で実施され、本学附属高校が長崎
南山高校に1-0で競り勝ち、3年連続
3度目の優勝を飾った。今大会は新
チームが始動して間もない中、見事3
連覇の快挙を成し遂げた。



安藤 翼 選手 U-17日本代表候補に 選出される

附属高校サッカー部1年生の
MF安藤翼選手が日本サッカー協会よりU-17(17
歳以下)日本代表候補のトレーニングキャンペ
ンメンバーに選出された。安藤選手は、得点感覚に優れるアタッカ
ーで、選手権大会でも優れた技術力でチームの勝利に貢献。特
に2回戦で決めたゴールは、約20メートルの距離からのミドル
を相手ゴールへ突き刺し強烈なインパクトを残した。



◇観戦記

2年前の附属高校サッカー部主将で現在
大学サッカー部に所属する



情報学部経営情報学科 2年 本多 雄一 さん

今回、母校の選手権出場を実際に応援に行くことが出来、本
当に感動しました。

会場では保護者の方々や、地域の方々、メンバーに入れな
かった高校生、OBの方々などたくさんの方が応援し、その中には俳優の金子昇さん
の姿もありました。応援をしていた中で、応援に駆け付けた方々が試合にのめり
込んで応援をしていたことや、PK戦の時、涙ぐみながら応援していたことが印象に
残っています。

今大会の結果は、ベスト16で敗退してしまいました。でもこれで終わりではありません。
3年生の皆さんは、これからの自分の進路に向けて新たなスタートをきりました。
サッカーを続ける生徒もいれば、今大会で最後だった生徒もいると思います。どの道
に進んでも高校3年間で学んだことは、この先きつと役に立つものばかりだと思いま
す。そのことを胸にこれからも頑張っていってください。1、2年生は、新人戦もありさ
っそく新チームでの公式戦があります。先輩たちに負けないように頑張ってください。

今回の応援や後輩の活躍を見て、とてもいい刺激になりました。大学サッカー部も
まず九州リーグ参入という目標に
向かってこれからもっと努力しなけ
ればいけないと再確認させられま
した。自分にとっても大変良い収
穫になった観戦となりました。



附属高校サッカー部 主将
前川 聖也 さん

年末年始にかけて第91回全国高校サッカー
選手権大会に出場しました。初戦は常葉学園
橘(静岡)にPK戦の末勝利することができ、続く
2回戦も香川西(香川)に4-1で勝つことができました。

しかし3回戦で東海大仰星(大阪)に敗れ、ベスト16という結果に
なりました。

結果は本当に残念で悔しい思いもありますが、ここまで3年間頑
張ってきたことが無駄ではなかったと確信することができました。

そしてこのメンバーと永くプレーができて本当に幸せでした。3年
生はこの大会を機に引退という形になりますが、この3年間で得た
ものを次のステップで活かしていきたいと思います。



最後になりました
が、この度は学校関
係者の方をはじめ地
域の方々など、たく
さんご支援とご協力
を本当にありがとう
ございました。

◇熱き戦いを終えて

附属高校サッカー部 監督
定方 敏和 教諭



大学創立70周年、附属高校50周年の記念すべき年に
第91回全国高校サッカー選手権大会に出場できたこと
は、大変喜ばしく誇りに思います。そして、この大会に出
場するにあたり、皆様方の温かいご声援とご支援、お心遣いを頂き、『我々は
周囲の方々に支えられている。』と改めて実感致しました。皆様方のお力添
えのお陰だと心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

さて、この選手権を終えて結果はベスト16。この選手権での私の収穫、それ
は『発見』です。指導者としての未熟さ、甘さが『発見』できました。今後はこの
反省と経験を活かしながら選手たちとともに成長していきたいと思いま
す。

また、この選手権は特別な憧れの大会といっても過言ではありません。な
ぜならば選手権とは、選手も指導者もそしてチームを短期間に成長させ、感
動と新たな夢を与えてくれる大会(場)だからです。
《サッカーは子供を大人にし、大人を紳士にする。》
この言葉のように、サッカーを通じて人間力を高め、そして
人間力豊かな大学、高校を目指しながら、ともに歩み、成
長していきたいと強く感じた大会であり、再び選手権に出
場し夢をつかみ取りに行きたいと思えます。

最後に、日頃よりご声援いただいて本当にありがとう
ございます。皆様のご声援を励みに前進していきます。





全国大会出場 102回目のプロローグ

独占インタビュー

附属高校サッカー部

小嶺 忠敏 総監督

(兼大学サッカー部総監督)

情報学部経営情報学科教授

附属高校サッカー部を今回「全国高校サッカー選手権大会」の舞台に導き、初出場ながらベスト16に進出した小嶺忠敏総監督に大会を振り返っての感想や類まれなる人材育成術について、独占インタビューを実施した。

今回の全国大会出場に際し、感動をあげてくださいました。今大会を振り返っての感想、また今回のベスト16という成績についてはどう評価されていますか

「もう1つぐらいは勝たせてやりたかった。」というのが正直な感想です。選手達に申し訳なかつたなど。少し手綱を緩めすぎたかなあと。

選手達は初出場で緊張していたので、最初はリラックスさせて選手達が力を発揮できるように、普段の練習からリラックスムードを意識して環境作りに徹しましたが、2回勝利して特に2戦目で4対1の大差で勝利したことで3回戦に臨むにあたり、ちよつとした気の緩みがあった。そこで手綱をビシッと締めるべきだったと反省しています。

本番前にどういうアドバイスをされ、選手をリラックスさせたのですか

アドバイスというより、瞬間的なひらめきでやっています。あらゆる場面で常に選手達を観察し、リラックスや気を引き締めるためには何を話し、何をさせるべきかを、その場その場で判断して今重要なことは何かを自分の頭の中で最適な選択をします。前もって準備した考えもある程度はありますが、ほとんどが瞬間的な判断です。



大会では初戦の開始前笑顔で選手をリラックスさせる

切。私も日本一になるまで20年かかりました。決して特効薬を求めているのではない。仮に簡単に優勝できたとしても、その指導者は単発の優勝しか出来ない。複数回の優勝は出来ないのです。

総監督には、選手だけでなく、指導者の育成というのがひとつの大きな目的としてあると思いますか

本学附属高校の指導者のみならず、長崎県内はもとより、全国に行っても、熱心に訪ねて来られる他校の指導者もおられます。「これは、もしかしたら日本一になれる」という若手指導者もいます。

実は、選手権大会が終わってから、選手に現在の指導についてどう思っているかを問いかけ、個々の指導力を高めて上げたいという思いも込めて、2、3年生の選手による指導者評価を抜き打ちで実施しました。評価結果を見ても、「選手達は指導者のことを実によく見ている」と本当に感心しました。

私の各指導者への評価とよく共通しています(笑)。この結果を各指導者にフィードバックし、良い指導をしてもらえることで、良い選手になれるというサイクルを、評価をする選手と、評価される指導者と、一緒に構築していきたいと考えています。

何の分野においても良い指導者は、レベルに応じたわかりやすいことばで、指導ができる。うわべだけ



全国大会のベンチでも若手スタッフ陣とともに戦術を確認する。

それはやはり経験に裏打ちされたものなのでしょうか

経験でしょうね。自分自身でやってきたものの。他の経験豊富な先生方のやり方はわかりませんが、指導者というのは、人のものまねでは駄目なのです。選手も個性が必要ならば、指導者も自分独自の個性が必要なのです。

指導者というのは、つい人のやり方を見よう見まねでやりがちですが、その指導者の持ち味を生かしつつ、人間性も加味したその指導者独自の方策や方式を作り出さなければいけません。



試合中、ベンチでひとり立ったまま、真剣な表情で戦況を見つめる

大会を通じて、選手達が確実に成長していると感じました。総監督の指導方針として、特に「個々のレベルに応じた指導」「長所を伸ばす、引き出す指導」が特徴だと思えますが、そうした人材育成術はどのような経験から導き出されたものなのでしょうか

20代から世界中を回り、FIFA国際連盟の指導者研修にも何カ月も参加し、世界のコーチングスクールなどにも通い、世界のサッカーをずっと見てきました。試合観戦に行った方はたくさんいるでしょうが、高校の指導者でそこまでやってきたというのは、他には負けないという自信があります。その中で、いろいろな方法を

総監督のモットーとして、「熱」「動」「生涯チャレンジ」ということばを掲げられています。総監督をそこまで奮い立たせ情熱を燃やし続ける、源や根底となるものは何なのでしょう。また、今後の総監督の目標をお聞かせください

これまでの目標を振り返ってみると、①「世界に通用する日本を代表するリーガーを育てたい」。そして、②「日本一を目指すようなチームを作りたい」。日本一を経験することによって選手達は人生において自信につながりますから。もうひとつは、③「教えた生徒が指導者としてリードするような人材を育てたい」というこの3つが私の指導者としての目標です。私の場合、この目標があるので、生涯チャレンジで、後継者が出来るまではやりました。

そして、元気な限り、教育者としても生徒を育てるのが私の仕事ですので、この世に生まれてきた限り、そんな選手がそんな人間が一人でも育つていく、と、というのは、とても幸せだし、恩返しだと思つのです。だから出来る限りのことはやりたい。いつまでやれるかわかりませんが全力投球で、生涯チャレンジでやっていきたいですね。

最後に、本学の学生や生徒に対して改めて伝えたいメッセージがあればお願いします

私は「生徒、学生の皆さんには、常にチャレンジしてほしい」と願っています。私が島原商業で日本一を目指すと言った

勉強しつつ、自分独自の方法を構築しました。だから、選手達も同じです。私がいつも使う言葉に「分析力」があります。その選手の長所は何なのか、短所は何なのか。人間、万能というのは絶対にないのです。いたらずそれは神様ですよ。

今大会も、吉岡選手やゴールキーパーの田中選手など、小柄な選手が、チームの中心として大活躍しましたね。



選手やチームの長所をとことん活かしてやらなければならないという気持ちでやっています。ついつい指導者は選手の目先の失敗をとがめてしまう傾向があります。選手の個性を理解するため、選手と向き合いじっくり話すことが大事です。選手と私自身との出会いを大切に、選手にも出会いの大切さを話しています。常に選手達と心通ずる覚悟でやっています。口先だけの指導者では駄目なのです。

私は選手にいつも「人生はリーグ戦だ」と言っています。トーナメントではない。

若い時はいろいろある。家庭環境の問題もあるし、実際、私自身も母子家庭で生まれて昔はとにかくいい加減な人間だった。しかし、中学、高校、大学の恩師と出会う、人生が変わったのです。人生には立ち直るチャンスがあるのです。

それと同じで、サッカーも失敗がいっぱいあります。失敗したから次から試合に出さないでは、その選手は潰れてしまう。何回失敗してもまたチャンスを与えて、高校3年間で急に伸びた選手もいるのです。どうしようもないと言われていた選手が伸びたケースもある。すぐ駄目だと思捨てずに、じっくりと見ていけば、やっぱりその選手には選手なりの持ち味があるのですよ。

時、周りから馬鹿みたいだと笑われました。当時は、九州のサッカーはまだまだ弱かったのです。人間というのは、どんな地方であろうとやる気になれば、やれるのです。私は人生で自分で身を持ってそれをやってきた。生涯はチャレンジの連続です。チャレンジ精神さえ持っていれば、人間も進歩しますし、チームも学校も、そして地域も活性化できます。

すでに新チームでの戦いがはじまっていますが、今後も更なる活躍を期待しております。

名将小嶺忠敏総監督にとつて全国大会通算102回目の出場となった今大会。だが、それはあくまで「プロローグ」に過ぎない。その熱い眼差しが見つめる先に期待を抱くのは、私たちだけではないはず。エピソードの気配すら感じない「生涯チャレンジ」の精神を目の当たりにし、その姿勢に改めて敬服するインタビューとなった。

(聞き手: 広報担当 田中、伊藤)

小嶺 忠敏

TADATOSHI KOMINE

島原商業、国見高校監督時代にサッカー部を17回日本一に導いた、高校サッカー界の名将。全国大会(高校総体・国体・高校選手権・全日本ユース)出場102回、優勝17回。元日本サッカー協会日本ユース代表(U-19)総監督・日本ユース代表(U-17)監督も経験。本学附属高校を本格的に指導して2年弱で、長崎県内の強豪校に育て上げ、今期、附属高校サッカー部を全国の舞台に三度(インターハイ、天皇杯、選手権)導いた。その人材育成術と手腕は、サッカー界のみならず各界から注目を集めている。



5 「ETロボコン2012九州地区大会」に出場。競技部門で第1位の快走を披露

ソフトウェアの制御技術を競う「ETロボコン2012九州地区大会」が9月1日・2日、福岡市の九州産業大学内で開催され、情報学部知能情報学科の学生チーム「NiASET」(顧問:下島真教授、代表:小川孝幸さん)が出場し、ロボットの走行タイムを競う「競技部門」で、NiASETは、企業や大学の強豪チームを押さえ堂々の第1位となった。

代表の小川孝幸さん(3年生)は「アクシデントなく実力を発揮できた。前半にスピードを抑えて安全に走らせたことが良かった」とレースを振り返った。



6 学園祭「造大祭」を開催しました

11月3日・4日の2日間、学園祭「第49回造大祭」と「第7回シーサイドフェスティバル」を同時開催した。

当日は、学生が運営する模擬店をはじめ、イケメンコンテスト、女装コンテスト、早食い大会、ビンゴ大会、音楽系サークルの学生ライブ、各学科やサークルによる展示などが実施され、たくさんの来場者で賑わった。

2日目は午後からあいにく雨に見舞われたが、スペシャルゲストとして、お笑い芸人のCO WCOWさんと長崎亭キョちゃんぽんさんのお笑いライブが開催され、会場の体育館は、大勢の人で埋め尽くされ、人気お笑い芸人の登場に歓声が鳴り止まない盛況ぶりだった。



女装コンテストで優勝した小串さん・阿南さんペア

7 経営情報学科のホームカミングデーを開催

情報学部経営情報学科のホームカミングデーが、11月3日の学園祭「造大祭」期間中に開催され、卒業生を中心に在学生、教職員が参加し、8号館でパーティーを開いた。

これは、2009年卒業の岡野紗季さんが、呼びかけ実現したもの。今回は2008年～2010年の卒業生を中心に35名が参加。卒業生は久しぶりの再会に料理を囲んで、それぞれが情報を交換し、楽しく談笑。楽しい時間を過ごした。



8 知能情報学科の学生が「ながさきユニバーサルデザインアイデアコンクール」で優秀賞と奨励賞を受賞

昨年12月、誰もが暮らしやすい社会を目指して毎年実施されている「ながさきユニバーサルデザインアイデアコンクール」の平成24年度の一般部門において、278点の応募作品の中から情報学部知能情報学科3年生の吉田俊樹さんが優秀賞、辻山真弓さんが奨励賞を受賞した。

吉田さんの作品名は「テーブルカッター もうスリません。」、辻山さんの作品名は「はさみまる」。吉田さんはアルバイト等での経験からテーブルカッターで手指を切った痛い体験から生まれたアイデアをもとに、ユニバーサルデザインとしても役立つのではないかと考えたもの。

優秀賞を受賞した吉田さんは、「こうしたコンクールは自分が考えたデザインやアイデアに対して評価や反応をいただける場であり、将来就職してからも、常に利用する人の立場や相手の立場を考えながらやっていきたい。」と話してくれた。



受賞した吉田さんと辻山さん

9 本学主催の合同企業面談会が開催される

一3年生の就職活動が解禁!学生の就職戦線を大学も全力で支援一 学生の就職支援を目的に平成26年3月卒業予定者(現3年生)を主対象とした長崎総合科学大学主催の合同企業面談会が12月20日、ホテルニュー長崎にて開催された。

今年で13年目となる今回は、全国から九州圏外の企業40社が参加。学生も3年生を中心に180名の参加があった。各ブースでは、採用担当者が業務内容や採用計画について資料や映像を示しながら説明し、学生は真剣な表情で面談に臨みメモを取りながら話を聞いていた。また本学卒業生の採用担当者も多く、本学4年生の内定者が企業側として参加しているブースも見られた。

会場では、学長をはじめ教員も多数出席し、企業との情報交換に積極的にブースを訪ねていた。

2月15日にも九州圏内企業約40社を招き同様の面談会を開催した。



1 文部科学省「緑の知の拠点事業」の成果報告会を開催

本学大学院新技術創成研究所では、文部科学省 大学発グリーンイノベーション創出事業「緑の知の拠点」の3年間の事業が採択されており、2年目となる今年度までの成果報告会を2月16日にベストウエスタンプレミアホテル長崎で開催した。

特別講演・招待講演に続いて行われた報告会では、これまで2年間の進捗状況について、「バイオマス発電」「潮流発電」「高性能リチウム電池」「モデル化」の各グループ別の報告が行われた。

本学は、環境エネルギー技術に関する研究成果を基盤に、「東長崎エコタウン構想」を掲げ、2009年「東長崎エコタウン研究会」を発足させ、名称を「地域連携研究会」に発展的に改称し、議論を積み重ねてきた。その後、この構想のもとに、環境に優しい未来型都市づくりの第一歩として、東長崎エコタウン協議会を発足した。今後、次世代のエネルギー源を提案するとともに、電力消費を減らす「自立型のスマートグリッド」を提案していく予定。



3 建築学科の学生がデザインしたリフォームプランが実現化される



デザインした松山さん

環境・建築学部建築学科3年生の松山莉加さんがデザインしたリフォームプランが実現化された。

これは長崎市の不動産業 株式会社ABCからの提案により、賃貸住宅を大学生の創造性を活かしたデザインでリフォームし、新たなライフスタイルの提案を長崎で実現しようとするもので、今回は、長崎市内にあるワンルームマンションの一室のリフォームについて、学生10名の提案の中から、松山さんのプランが採用されリフォームが行われた。

松山さんは「こんなにきれいになるとは思わなかった」と完成した部屋を見て感慨深げだった。



機能的でおしゃれな収納棚

2 谷川建設との共同研究 スマートハウス「ENEハウス」キャンパス内で建設が進む

東長崎エコタウン構想に関連して、2月14日には学内シーサイドキャンパスに谷川建設との共同研究に向けて建設中のスマートハウス「ENEハウス」の上棟式が行われた。主に太陽光を中心とした自然エネルギーを最大限活かしつつ、先進機器に頼らず、自然の力を限りなく有効活用する木造住宅である。建物は長崎県内産の木材を中心とした25.24坪の平屋で、3月末以降に完成予定。今後の研究・実証の成果に期待がかかる。



建設中の「ENEハウス」



完成予想図(谷川建設提供)

4 ヨット部、新極真空手部の活躍に対して「学生報奨金」を授与

学生報奨金の授与式が実施され、ヨット部の古賀 理さん(工学部機械工学科2年生)と森本貴宏さん(工学部船舶工学科1年生)、新極真空手部の岡田修一さん(工学部船舶工学科4年生)が表彰された。

ヨット部の古賀さんと森本さんは2012年度九州学生ヨット個人選手権大会のスナイプクラスで2位、新極真空手部の岡田さんは第29回オーブントーナメント長崎県空手道選手権大会一般の部で優勝した功績を称えるもの。

本学ではクラブ活動等で優秀な成績を修めた学生に対し、大学や後援会がその功績を称え、表彰を行っている。





NiASのキャンパスやキャンパスを飛び出し、
プラスアルファで活躍&奮闘する学生&職員
をピックアップ!

「海外留学」でグローバルな視点と語学力を磨く!!



山口 静香さん

情報学部知能情報学科 1年生
長崎県立佐世保南高校卒
留学先: オーストラリアのELS
(Universal English College)

「将来は、学科で学んだ知識を活かし広告やパッケージデザイン分野の仕事を手がけてみたい!」そう語る山口さんが、専門分野を究め、将来の夢を叶えるためにも、まず考えたのは広い視点からの自分磨きの実践! デザインの実力だけでなく、グローバル感覚が優れているデザイナーの資質を磨こうと努力する山口さんに、海外留学の感想などを語ってもらった。

□今回留学しようと思ったきっかけを教えてください

今回私は、オーストラリアのシドニーへ2週間短期留学をしました。きっかけは、他国の習慣や、ネイティブの英語を学びたかったからです。また、留学を通して自分の新たな発見ができるかもしれないと思いました。

□実際に留学してみての感想はどうでしたか

留学をするにあたって、自分なりに勉強したつもりでいましたが着いた当初は、ネイティブのスピードに圧倒され、自分のspeaking力、listening力の無さに落ち込んでしまいました。しかし、慣れてくると、次第に何を言っているのか



少しずつ理解することができました。私は冬休みの間に行ったので、オーストラリアのクリスマスや元旦を経験することができました。オーストラリアのクリスマスは日本でいうお正月みたいなもので、親戚が集まったりしてとても賑わっていました。

また、留学先のオーストラリアのELS(Universal English College)に通学しましたが、日本の英語の授業とは違って新鮮ですごく面白かったです。



□今回の経験で得たものや今後の目標などあれば教えてください

留学して一番の収穫は、視野が広がったことです。オーストラリアに行き色々な人種の人に出会いました。英語のなまりもそれぞれ発見できたし、さまざまな年齢の人と触れ合うことができて、いい刺激になりました。この経験を活かし、これからもどんどん旅をしたいと思いました。そのためにも、世界共通言語である英語の学習を欠かさずやっていきたいです。

学生のキャリア支援の現場で活躍する!!



陣野 純子さん

大学事務職員

昨年、CDA(キャリア・デベロップメント・アドバイザー)と2級キャリアコンサルティング技能士の2つのキャリアカウンセラー資格を取得された陣野純子さん。大学院事務室の仕事に従事しながら、その専門的知識とスキルを活かして、学生の就職・キャリア支援の現場でも活躍している陣野さんにキャリアカウンセラー資格取得の背景や就職活動のアドバイスなどを伺った。

□キャリアカウンセラー資格を取得された動機や背景を教えてください

私がキャリアセンターに所属していた時も色々な学生が訪れていました。自分で進むべき道を決めて『就活』のアドバイスを受けに来る学生もいれば、それが定まらず不安を抱えて訪れる学生もいます。前者の学生へは、『就活』のテクニックを伝授すれば良い訳ですが、後者の学生の場合は、自分自身と向き合い自分で考えを導き出すことが出来るような支援が必要です。人生の選択とも言えるその場面の支援に携わるにあたり、専門的なキャリアカウンセリングやコンサルティングを学ぶ必要性を痛感しました。

□キャリア支援を実践されているわけですが、その具体的な内容と今後の展望をお聞かせください。

学生が自らの在り方や人生を考えて職業(進路)を選択するためには、低学年時からのキャリア教育が大切です。また、本格的に就職活動をする時期には、履歴書作成や面接等の実践練習が必要となってき



ます。

現在は主に予約制のカウンセリングや要望に応じて面接の練習等を行っています。これからも今迄以上にキャリアセンターと連携し学生支援の充実を図っていききたいと思います。

□キャリアカウンセラーの視点から現在就職活動中の学生へアドバイスをお願いします。

就職先は自分の「興味」、「能力」、「価値観」をもとに選ぶと良いとされ、企業の「厳選採用」傾向が強まる中、それらがマッチしないと内定を頂くことは難しいと言えます。そこで、少し邪道ですが、企業研究を「自分中心」に行ってみてください。例えば、会社説明会では「この会社に携わるとすれば、自分のどの能力が発揮できるか?」どんな価値観が合致しているか?」等を念頭に話を聞きます。そうすれば、自分とその会社との相性や接点が少しずつ見えてくると思います。また、接点が理解出来たら、エントリーシートや履歴書の志望動機欄も書き易くなります。

□就活で悩んだり、困ったりしている学生へメッセージをお願いします。

まずはキャリアセンターに気軽に足を運んで相談してください。身近にいる教職員にも相談してみると良いと思います。大学院事務室でも相談可能ですので、お気軽にお越しください。



NiAS NEWS

SELECTION OF 2012

2012年度の
NiASニュースの
選りすぐりを
ダイジェストで
紹介します!

祝 学校法人長崎総合科学大学創立70周年、 附属高等学校創立50周年

【関連記事2頁】

学校法人創立70周年、附属高等学校創立50周年を記念し、昨年10月13日(土)、長崎ブリックホール(長崎市茂里町)において、記念式典ならびに記念講演会を開催した。

また、「学校法人70周年記念誌」「附属高校創立50周年記念誌」も発行した。



新 学校法人長崎総合科学大学 新理事長に 立石 曉氏を選出

【関連記事3頁】

学校法人長崎総合科学大学は、昨年11月10日開催の理事会において、学校法人長崎総合科学大学副理事長の立石曉氏を平成24年11月11日付で理事長に選出。



初 附属高校が全国高校サッカー選手権大会に 初出場! ベスト16の活躍!!

【関連記事4・5頁】

附属高校サッカー部が、夏のインターハイと冬の全国高校サッカー選手権大会に初出場!

冬の選手権ではベスト16に進出する活躍で、学校創立50周年に花を添えた。

今季、長崎県内では新人戦、高校総体、県リーグ、選手権と公式戦無敗の4冠を達成。



話題 person



災害復興支援のため、2ヶ月間被災地でボランティア活動に参加した
鼈甲屋 賢治さん(環境・建築学部人間環境学科4年生、長崎南山高校卒)を紹介します。

鼈甲屋さんは、東日本大震災被災地の一つである、岩手県大槌町に2011年の9月から合計で4回、日数としては2カ月程度、被災地に実際に赴き、災害復興支援のためボランティア活動に参加。その経験から、大学の卒業研究においても『災害復興におけるボランティアの役割・考え方』と題して今年2月に研究発表を行い、被災地支援の課題やボランティアの必要性、ならびに復興に向けての提言等を発表した。

今回、鼈甲屋さんにボランティア活動を経験してのレポートの執筆をお願いした。



鼈甲屋さんがボランティアで活動した岩手県大槌町の被災跡



被災地で地道にボランティアに励む鼈甲屋さん

REPORT ボランティア体験レポート「被災地支援の現場から」

「ここは津波でほとんどが流されて何もなくなってしまった。だから、これから何回でも、何人でも、たくさんの人に来てもらって、その人たちの足跡をたくさん残して欲しい。」初めて訪れた被災地で被災者の方が私に言ってくださったことばです。そのとき、私は、なんとも説明しがたい複雑な心境を共有する一方、ボランティアとして訪れた私を歓迎していただいたことに、嬉しい気持ちになり、元気よく「ハイ!」と返事をして固い握手を交わした記憶が残っています。

被災地でのボランティア活動は、仮設住宅を周っての傾聴ボランティアや、長崎ちゃんぽんを振る舞う炊き出し、夏には草刈り、冬には雪かきなどがありました。現在でも、少なからず震災した家屋の泥だしなどの活動も行われていますが、基本的には、訪問や傾聴ボランティアが主になります。

私が、傾聴ボランティアとして、ある仮設住宅を訪れた際に、被災者のおばあちゃんを、仮設住宅の集会場から50mほど離れた仮設住宅のおばあちゃんの家へ送って帰った時のことです。その日は雨が降っていました。だいたい腰が曲がったおばあちゃん、傘と杖と、集会場で買ったお土産などで手がふさがっていたので、私が傘をさしながら一緒に歩きました。『少し歩いては、少し立ち止まり、少し喋って、また歩き出す。』そんな事を、何度か繰り返しながら、無事に送り届けました。私は、被災地の復興もき

っと、こんな感じなのかと思いました。少しづつでも良いから、ときどき休んでも良いから、確実に前に進む事が大事なのだと思います。震災から二年近くがたった今でも、被災地にはさまざまな多種多様な、がれきと課題がまだまだ山積しており、まだまだたくさんのボランティアが継続的かつ長期的に必要とされています。私にも驚くほどの文才があったとしても、『百聞は一見に如かず』。実際に行って、見て、触れて、感じることに勝らないと思います。皆様にもぜひ一度、行って、確かめて頂きたいです。もしかすると、言葉に表せない複雑な感情に襲われるかもしれません。言葉で表現することが出来なくても、行ったという事実を共有する事が出来るならば、被災者とも、ボランティアの方とも、また、被災地にも近づき寄り添えることが出来るのではないのでしょうか。



大学の卒業研究発表会で『災害復興におけるボランティアの役割・考え方』について発表する鼈甲屋さん。復興には、ひとりでも多くのボランティアが被災者と手を取り合い、共に歩んでいくことが必要だと訴えた。